第１７回 山口県介護保険研究大会
開　催　要　項
どうつくる？ 地域包括ケアシステム
～誰もが住み慣れた地域で安心して生活を継続していくために～

１　趣　　旨

平成２７年に介護保険法が改正され、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを継続することができるよう、関係機関・サービス提供事業者による在宅医療・介護連携、多様な生活支援・介護予防サービスの包括的な提供体制の構築が求められている。

今日、要支援、要介護の高齢者が増え続ける中で、本制度が利用者にとってよりよいものとなっていくためには、医療、保健、福祉の関係機関・サービス提供事業者をはじめ、行政機関や地域住民が連携・協働し、それぞれの地域にあったサービス提供体制を構築し、重層的に支援を行っていくことが必要となっている。

そこで、医療、保健、福祉のサービス事業者等が一堂に会し、１７年目を迎える制度がよりよいものとなるために、さらにはサービスの質の向上と職員のスキルアップに向けて論議、研究するため「第１７回介護保険研究大会」を開催する。

２　主　　催

山口県介護保険関係団体連絡協議会

（山口県医師会、山口県歯科医師会、山口県薬剤師会、山口県看護協会、山口県栄養士会、山口県医療ソーシャルワーカー協会、山口県理学療法士会、山口県作業療法士会、山口県老人保健施設協議会、山口県老人デイ・ケア協議会、山口県訪問看護ステーション協議会、山口県国民健康保険団体連合会、山口県老人福祉施設協議会、山口県地域包括・在宅介護支援センター協議会、山口県ホームヘルパー連絡協議会、山口県デイサービスセンター協議会、山口県介護福祉士会、山口県介護支援専門員協会、山口県社会福祉士会、山口県福祉用具協会、山口県宅老所・グループホーム協会、山口県社会福祉協議会　【２２団体で構成】）

３　後　　援

山口県、山口県市長会、山口県町村会

４　日　　時

平成２８年１１月２７日（日）午前１０時から午後４時２０分まで

（終了時間は、研究発表・実践報告の題数により変更になります。）

5　会　　場

山口県総合保健会館
〒753-0814　山口市吉敷下東３丁目１－１
TEL:083-934-2200 FAX:083-934-2209
【午前】＜全 体 会＞　多目的ホール
【午後】＜第１会場＞　多目的ホール
　　＜第２会場＞　第１研修室
※研究発表と実践報告併せて２会場

6　定　　員

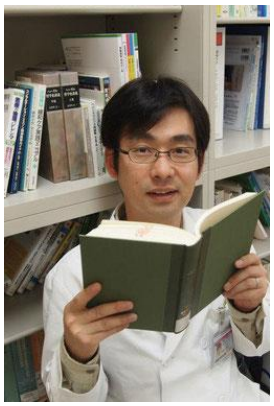
５００人

7　内　容・日　程

時　間	内　　容
９：００	受　　付
１０：００	開　　会
１０：１５	基調講演 「どうして人は人をケアするのか―僕らがケアを続けるための哲学、そしてケアカフェ®」 〈講師〉 旭川医科大学病院 緩和ケア診療部 副部長 緩和医療専門医　阿部 泰之　氏
１２：００	昼食・休憩
１３：００	研究発表・実践報告 １つあたりの発表、報告を１０分、質疑、助言を５分とします。 １会場あたり９から１０の発表、報告を予定。 時間内に休憩１５分、まとめ１５分とします。
１６：２０	閉　　会

ケア・カフェ®について
ケア・カフェ®は、地域における医療介護福祉間の現場においてのバリアをなくし、顔の見える関係を創出するための方法論であり、構造構成理論を基盤としながら、社会学や教育学の理論を背景にもち、方法としてワールド・カフェを継承して行われる取り組み。北海道旭川で開発され、その後全国に広がり、現在 36 都道府県、130 以上の地域で開催されている
http://www.carecafe-japan.com/　https://www.facebook.com/carecafe.japan

講師紹介　阿部泰之（あべやすし）



旭川医科大学病院　緩和ケア診療部副部長
1972 年長野県生まれ。1999 年旭川医科大学卒業後、整形外科医として主に骨肉腫など骨軟部腫瘍の診断・治療に従事。2005 年和歌山県立医科大学にて緩和ケア病棟に勤務。2006 年旭川医科大学病院緩和ケアチームを立ち上げ、同チーム専任医師となる。2007 年-2010 年には同大学精神科医師を兼任。2010 年 10 月から現職
日本緩和医療学会代議員、日本サイコオンコロジー学会代議員、あさひかわ緩和ケア講座代表、あさひかわ緩和ケアネットワーク発起人、構造構成医療研究会代表、医療者・介護者・福祉者のための「ケア・カフェ®」代表など。絵本作家 https://www.facebook.com/ehon.abeyasushi
日本緩和医療学会　緩和医療専門医
博士（医学）

主な著書・論文

- じぶんできめるって？（絵本）文芸社. 2013
- 万華鏡とサクラ（絵本）最新医学社. 2014
- イタタタ　た（絵本）最新医学社. 2015
- ナニコレ？痛み×構造構成主義　南江堂. 2016
- 緩和医療薬学（分担執筆）南江堂. 2013
- 専門家をめざす人のための緩和医療学（分担執筆）南江堂. 2014
- 看護実践にいかすエンド・オブ・ライフケア（分担執筆）日本看護協会出版会. 2014
- 症例で身につくがん疼痛治療薬（分担執筆）羊土社. 2014
- がん患者の精神症状はこう診る　向精神薬はこう使う（分担執筆）じほう. 2015
- 緩和ケアの基本 66 とアドバンス 44（分担執筆）南江堂. 2015
- 緩和ケアレジデントマニュアル（分担執筆）医学書院 2016
- 「医療介護福祉の地域連携尺度」の開発. Palliative Care Research 2014;9:114-20
- ケア・カフェ®が地域連携に与える影響―混合研究法を用いて―. Palliative Care Research 2015;10:134-40
- 医療者支援（ケア・カフェ®）　ペインクリニック 2015;別冊秋号:S669-676　など

8　研究発表・実践報告内容　【第１会場】

【助言者】山口大学大学院　医学系研究科　講師　矢田　浩紀 氏
【司　会】山口県地域包括・在宅介護支援センター協議会　理事　山髙　正義 氏

【研究発表】

「連携・協働に関すること」

山口県訪問看護ステーション協議会　　発表者：小池　千也子
「介護支援専門員の訪問看護利用の実態の追跡調査」
前回（平成２２年）のアンケート結果と比べ介護支援専門員の訪問看護に対する意識の変化を調査する。

山口県歯科医師会　阿知須歯科　　発表者：戸井　正樹
「特別養護老人ホームにおけるミールラウンドに歯科が介入して」
平成２７年度の介護報酬改定で、多職種での食事の観察（ミールラウンド：ＭＲ）及びカンファレンスを行うことで、経口維持加算が算定可能となった。今回、その実施状況について、検討を行い、若干の知見を得たので発表する。

「介護サービスの質の向上に関すること」

山口県介護福祉士会　山口県済生会豊浦病院　　発表者：西田　智和
「排泄パターンの評価から防水シーツの使用を判断する取り組み」
地域包括ケア病棟は、患者の安心・安全な在宅復帰支援を役割とした病棟である。今回、退院する患者の防水シーツ使用とＡＤＬの関係性について検討し、ＱＯＬ・Ｉ－ＡＤＬの拡大に繋がった。
※ＱＯＬ(Quality of life)、Ｉ－ＡＤＬ(手段的日常活動動作能力)

山口県老人保健施設協議会　　発表者：石川　勝也
「転倒・転落関連の事例を基にＫＹＴを導入して　～安全な生活のために～」
実際の転倒・転落関連の報告書を基に、現場の写真を撮り、それを基にＫＹＴを継続して行い、スタッフのリスク意識を高めることで、インシデントやアクシデントが減り、入所者のより安全な生活を提供したいと考え取り組んだ。
※ＫＹＴ（危険予知訓練）

「介護予防・生活支援に関すること」

山口県立大学大学院　健康福祉学研究科　　発表者：林　瑞恵（理学療法士）
「過疎地域で暮らす在宅高齢者に対する廃用症候群予防につながる生活のあり方の検討」
過疎地域で暮らす在宅高齢者の日常生活動作や余暇活動の内容、活動時の交友関係を調査することで、廃用症候群の予防につながっている要因を探索的に明らかにし、廃用症候群予防につながる生活のあり方を検討する。

【実践報告】

「連携・協働に関すること」

介護老人保健施設　しまた川苑　報告者：大津　茂生
「介護老人保健施設～ギブアップ型入所からの脱却・メンテナンス型入所への転換に向けて～」
　介護老人保健施設は在宅復帰支援施設ですが、在宅介護の限界が来た方の入所相談が多いのが現状です。この在宅介護の限界前に入所してもらい、在宅復帰に繋がる様にケアマネージャーと連携していく取組を報告します。

公益社団法人　山口県栄養士会　北浦地域専門部会　報告者：小崎　充子
「嚥下対応食への取り組み」
北浦地域ではかねてより医療・福祉施設の嚥下困難食の基準の違いが患者・利用者への安全な食の提供に支障をきたしていた。今回２年間にわたり嚥下対応食についての事業を開催したので、その活動内容を報告する。

公益社団法人　山口県歯科医師会　地域保健委員会　報告者：山口　貴久
「山口県在宅歯科保健医療連携室事業の取り組みについて」
　山口県歯科医師会は、医科・介護等との連携を図り在宅医療の一層の推進に向けて取り組むため、平成２３年に山口県在宅歯科保健医療連携推進室事業を開始した。４年前に今大会において研究発表を行なったが、その後の経過について報告する。

「介護予防・生活支援に関すること」

一般社団法人巨樹の会　下関リハビリテーション病院　報告者：高木　雄作
「週に１度の通所型介護予防教室の効果と今後の課題について」
　当院が実施している週１度の通所型介護予防教室について１年が経過した。そこで実施した身体機能や生活範囲などの評価をまとめ実際に効果があったのか、また今後はどうしていくべきか検証していく。

「在宅ケアに関すること」

山口県作業療法士会
医療法人社団　季朋会　王司病院　　報告者：岡藤　農
「オートレース場まで行きたい」～生活行為向上マネジメントを導入した症例～」
　入院当初より生活行為向上マネジメントを導入し、自宅環境の設備を考慮し、本人の強い希望であるオートレース場までの移動参加を目標にリハビリテーションを行った。目標達成までの関わりを報告する。

※　大会当日の発表の順番は改めて決定します。

9　研究発表・実践報告内容　【第２会場】

【助言者】合同会社　和の会　代表者　久保田　トミ子 氏
【司　会】山口県老人福祉施設協議会　理事　辻中　浩司 氏

【研究発表】

「連携・協働に関すること」

光富士白苑居宅介護支援事業所　　発表者：棟近　俊昭　（主任介護支援専門員）
「家族の介護力を維持できながら、医療との連携により心身状況の改善が果たせた事例」
　せん妄のため向精神薬の処方により、傾民が強く、意識が覚醒することは稀であった。
　家族を中心に主治医及びサービス事業所との連携により、介助による杖歩行が可能になるまで回復することが出来た事例。

「介護サービスの質の向上に関すること」

一般社団法人　徳山医師会　在宅支援部　　発表者：坂本　浩
「居宅サービス事業所における「可視化」に着目した職員教育システムの研究」
　Ａ居宅介護サービス事業所にて、「可視化」に着目した職員教育システムを構築し、項目を指標化した。抽出した改善項目のフォローアップ研修を行い、自己評価の結果から、職員教育に与える影響について考察した。

「在宅ケアに関すること」

医療法人　和同会　山口リハビリテーション病院　発表者:原野　大助　（理学療法士）
「退院前後における介護負担感の変化について～Zarit 介護負担尺度日本語版を用いた検証～」
　退院前に家族が予想している介護負担感を Zarit 介護負担尺度日本語版を用いて比較する。その感じ方に影響を及ぼしている因子を検証することで、退院調整の円滑化を図る。

「働き続けられる職場づくりに関すること」

山口県介護福祉士会　医療法人社団水生会　柴田病院
　デイサービス　ホットスプリング　　発表者：景由　洋一
「魅力的な職場づくりを目指して～職場アンケートの結果から～」
　職員の立場から組織の人材育成を行いながら、魅力的な職場づくりを行うには、どのような取り組みが必要となるのか、自施設の職員に対してアンケート調査を行いその結果を分析した。

【実践報告】

「地域包括ケアに関すること」

周南市在宅医療介護支援センター　　報告者：藤井　博子

「地域包括ケアにおける周南市在宅医療介護連携支援センターの活動について」

本年度、在宅医療・介護連携を支援する相談窓口として「周南市在宅医療・介護連携支援センター」が設置された。地域資源の把握や専門職からの相談対応など一連の活動から得られた知見や課題について報告する。

「連携・協働に関すること」

周南市在宅医療介護支援センター　報告者：岡　美絵

「周南市在宅医療介護連携支援センターを通じた医療介護連携について～早期に医療が介入することで在宅生活が可能となった事例の報告～」

周南市では今年４月に「在宅介護連携支援センター」が開設した。医師会居宅が連携支援センターを通じて医師や医院等につないでもらうことで、迅速に利用者への支援を開始できた事例を紹介する。

山口県医療ソーシャルワーカー協会　報告者：椙山　誠

「自宅での看取りを実現する為の多職種での連携について」

医療依存度は高いが、「自宅で看取りたい」というご家族の希望を実現する為、多職種での連携を行い自宅への退院が可能となった患者さんの事例について報告します。

「在宅ケアに関すること」

山口県ホームヘルパー連絡協議会　報告者：原田　真澄（副会長）

「山口県ホームヘルパー連絡協議会の歩みと今後」

昭和５６年に設立した山口県ホームヘルパー連絡協議会の歩みを振り返る。そして、時代と共に在宅生活を支えてきたホームヘルパーの役割を見つめ、今後の山口県ホームヘルパー連レク協議会のあり方を考える。

「看取りに関すること」

社会福祉法人博愛会　有料老人ホーム山口あかり苑　報告者：安光　淳（生活相談員）

「看取り看護～いつもと変わらない日常を～」

看取り介護をはじめて、２年目に入りました。導入するまでの取り組み、看取りを行っていく中で、入苑者、家族に寄り添えているか葛藤しています。その中で、職員の看取りに対する考え方の変化や成果を報告します。

「住民参加の活動に関すること」

宇部市　健康福祉部　健康推進課　報告者：泉　美津江

「介護予防リーダーの養成と地域住民の健康づくり活動支援の取組について」

地域介護予防活動支援事業「介護予防リーダー養成講習会」を開催。住民が主体的に介護予防に取組むことができるよう、安全で効果的な運動や仲間づくりを支援する人材の育成と介護予防リーダーのその後の活動について報告する。

※　大会当日の発表の順番は改めて決定します。

10　参 加 費

２，０００円〈資料代〉【大会当日、受付でお支払いください。】

11　参加申込方法

「第１７回 山口県介護保険研究大会参加申込書」に必要事項を記入し、下記へＦＡＸ又は郵送でお申込みください。

12　申込締切日

平成２８年１１月７日（月）必着

13　留意事項

（１）昼食については、会場で「赤い羽根弁当（お茶付・税込み６００円)」を斡旋いたします。

　必要な方は、大会当日の受付時間内（午前９時から午前１０時まで）に食券を購入してください。【参加費に昼食代は含まれていません。】

（２）研究発表会場の座席数には限りがありますので、発表時間により立見となることもあります。

（３）会館敷地内の駐車場につきましては、関係者専用となっています。来場者の方は下記「会場周辺地図」の専用駐車場及び臨時駐車場等を利用してください。

（４）駐車場のスペースに限りがありますので、参加にあたっては、公共交通機関の御利用や自動車の相乗りの御協力をお願いします。

14　申込み・問い合わせ先

山口県介護保険関係団体連絡協議会
〒753-0072　山口市大手町 9-6（山口県社会福祉協議会 地域福祉部 内）
TEL(083)924-2828　FAX(083)924-2847
E-mail　kaidankyo@yg-you-i-net.or.jp
URL　http://yg-kaidankyo.jp/

【会場周辺地図】